

★本記事の読み上げ動画を作成しました!

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、 本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください! 動画はこちら→https://youtu.be/kCKrKuvd_Tc







連載

★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への 移行に取り組むクラブ★

NPO法人アビースポーツクラブ

北海道勇払郡安平町

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5 (2023) 年から令和7 (2025) 年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

クラブ概要

震災を機に設立。生涯スポーツの実現に向けて活動中

平成30(2018)年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、北海道・安平町のスポーツ環境が激変しました。子どもたちが遊んだり練習したりしていた広場が自衛隊救助へリコプターの活動拠点になりました。町内の屋内体育施設が被災し、使用できなくなりました。

「このままでは子どもたちのやりたいことができなくなってしまう」

そう危機感を覚えた地域住民が平成31(2019)年1月に設立総会を行い、5月に法人格を取得し、 「NPO法人アビースポーツクラブ」として活動を開始しました。

文部科学省が推進している「総合型地域スポーツクラブ」として、多種目・多世代・多志向の活動 を展開し、生涯スポーツ社会の実現に向けて日々、活動しています。

現在は17団体が所属し、12種目の活動を展開中。単一種目を実施している地域の団体がアビースポーツクラブに所属し、各種目の活動を行うなかで、スポーツ保険の加入や各種問い合わせ対応など事務局の一部をアビースポーツクラブが一元管理しています。加えて、イベントの開催や送迎バスの運行など活動の支援も行っています。



種目は、野球やサッカーといったチームスポーツから一輪車やチアダンスなど個人種目まで多様な活動をしており、なかには北海道らしいアイスホッケーのクラブも所属しています。また、安平町は世界的な名馬を多数輩出する馬産地でもあり、地域の特徴を生かした乗馬クラブもあります。

会員数は、令和6(2024)年7月末時点で334名、幼児から大人まで幅広い年代の方が所属しており、 5名の事務局体制で運営しています(内訳は、専属1名/クラブマネジャー、非常勤1名/事務局長、 パート1名、地域おこし協力隊2名)。

事業(イベント)としては、子どもを対象にしたスポーツの楽しさを提供する「きっずすぽーつデイ」や、大人のスポーツ実施率向上と健康増進を目的とする「大人のスポーツDAY」、親子でスポーツを通じて絆を深める「親子スポーツDAY」などを定期的に開催し、会員限定の交流イベント「アビーまつり」や地域の誰もが参加できる「アビーウインターフェス」なども開催しています。



クラブ設立5周年を記念して行ったイベント



多世代が楽しめるスポーツイベントを企画

2

部活動コーディネーターの企画で 連携・移行が前進

小さな町でも継続してスポーツや文化活動に取り組める環境をつくることを 目的に動きだした部活動の地域移行

人口減少や少子化により、既存の学校部活動はもとより、地域のスポーツ・文化活動が衰退する 危機感をもっていました。スポーツを「する」だけでなく、それを「みる」人や「ささえる」人も同時 に減少するからです。震災以降にそれらをより顕著に感じました。当クラブは、安平町教育委員 会とさまざまな事業を共催するなど定期的にコミュニケーションをとっており、地域の課題も共有していました。そこに出てきたのが「部活動の地域移行」でした。まだ、何が正解かわからない 状態でしたが、確実に言えるのは、何もしなければ地域のスポーツ・文化環境が衰退していくということ。それはつまり、「夢がないまち」とも表現できると思います。

そこで、令和2(2020)年「安平町部活動の在り方に関する検討委員会」を立ち上げ、学校管理職や 顧問、教育委員会および当クラブスタッフなどが委員となり、議論を進めました。

さまざまな議論を通して安平町では、中学生年代に限らず、子どもから大人までのスポーツ・文化環境をつくることを目的に部活動の地域移行に取り組むこととなりました。また、当時の中学1年生が卒業するまで部活動を続けることができるよう令和7(2025)年度末までに地域移行を完了させるというゴール設定にしました。さらに、土日のみの地域移行では本質的な解決にはならないため、平日も含めた地域移行に取り組むこととしました。



安平町行政の地域おこし協力隊を効果的に登用。 5つのクラブの地域移行化が実現した

令和5(2023)年度から、当クラブが部活動の地域移行を含めた業務を受託し、地域のスポーツ・ 文化環境の体制整備を実施しています。また、同年5月より安平町行政が行っている地域おこし協 力隊を登用し活動を推進、アビースポーツクラブに配置しました。

さらに、生徒や保護者をはじめとした地域住民に対しての説明会を各中学校区にて実施。町と 共催で「これからの安平町の文化・スポーツ環境をつくるワークショップ」を開催しました。北海道 教育委員会「部活動の在り方検討支援アドバイザー」の磯田大治氏による基調講演や地域おこし協 力隊による安平町の取り組みの説明および参加者も含めたグループディスカッションを小中学生 や地域住民約30名とともに実施しました。

このような取り組みの成果として、地域移行の取り組み初年度となる令和6(2024)年1月には2 つの部活動が地域クラブ化し、翌年度の令和6(2024)年4月にはさらに3つの部活動が地域クラブ 化しました。

これまで地域クラブ化した部活動はすべて運動部でしたが、運動部と同様に文化部も地域移行 するため、令和6(2024)年度より文化芸術活動にたけた人材2名を地域おこし協力隊として安平町 行政が登用し、連携しながら活動を推進しています。

令和5(2023)年度に着任した地域おこし協力隊員が令和6(2024)年1月、不慮の事故で帰らぬ人 となりました。きれいごとではなく、彼がいなければ今の地域移行の形はあり得ませんでした。 これまでの取り組みをベースに新しいメンバーが遺志を継ぎ、より良い地域の文化・スポーツ環境 をつくるため日々活動しています。

【具体的な取り組みの内容】

1<地域クラブ化支援>

部活動の地域移行の目的や意義を広く住民の方々に知ってもらうために、町の広報誌に掲載し たり、北海道安平町にて放送されているエリア放送「あびらチャンネル」にて特別番組として地域 移行の取り組みや実際に地域クラブの様子を放送したりしています。また、部活動に所属する生 徒や保護者、顧問の先生などの関係者に対して教育委員会と協力して、複数回にわたる説明会を 実施し、不明点や不安の解消に取り組んでいます。また、実際に地域クラブを設立する際に規約 づくりや体験会の実施など地域クラブ化に向けた活動全般の支援をしています。

2<地域クラブ運営支援>

地域クラブ設立後は、名簿の管理や保険の加入はアビースポーツクラブで一元管理することで、 各地域クラブの事務負担を軽減しています。また、中学校体育連盟などへの大会登録については、 各地域クラブの事務局をアビーがサポートすることによりスムーズな事務局運営を実現しています。

3<送迎サポート>

スポーツ振興くじ助成金を活用してマイクロバスを購入し、平日の活動の送迎をサポートして います。約10名程度が毎回利用し、多いときには20名以上が活動場所まで送迎バスを利用してい ます。土日など通常のバス運行がない日は、地域クラブへバスを貸し出しており、遠征や合宿な どにも活用されています。



【指導者、財源、活動場所の確保方法】

1<指導者>

スポーツ少年団の指導者や地域クラブの指導を希望する教員が兼職兼業で行っているケースが 多いですが、各地域クラブの指導者や保護者が主体的に指導者を募っています。また、指導者資 格取得等にかかる費用を当クラブが負担することで、「指導者の量」の確保を支援しています。また、 コーチングに関する指導者研修を主催し、競技にかかわらず「指導者の質」の確保にも取り組んで います。



「指導者ダブル・ゴール・コーチング研修会」の様子



「これからの安平町の文化・スポーツ環境をつくるワークショップ」を開催

2<財源>

国の実証事業の補助金だけでなく、継続性を担保するために受益者負担による会費や個人・企業からの寄付を活用しています。また、北海道教育委員会の「Do-START」事業の一環として、大塚製薬などと連携し「地域貢献型自動販売機」を設置し、売上の一部が地域のスポーツ環境整備に活用されるような仕組みづくりを行っています。

3<活動場所の確保>

学校施設や地域の体育施設を利用しています。安平町立早来学園は地域開放を前提に設計されているため、予約状況がスマートフォンで確認でき、予約も可能なため利便性が高いです。また、各地域クラブ同士の風通しが良いため互いに譲り合い、協力して活動場所を確保しています。

【連携している関係団体について】

アビースポーツクラブのスタッフが、安平町の体育協会のスポーツ推進委員に所属しており、 つど情報共有しています。また、文化協会の理事会等にも参加することで地域の課題やニーズの 発見につなげています。

【取り組みを進めてきたなかで得たこと、苦労したことなど】

前提として、この取り組みが正解かどうかはまだわかりません。ただ、「より良い文化・スポーツ環境をつくるには今何ができるか」を問い続けた結果が今の取り組みです。苦労したことは、指導者や財源の確保、バスの購入と運転手の確保など挙げればキリがありません。一方で得られたことは、世代を超えた地域の文化・スポーツ活動の継続性と「アビースポーツクラブならなんとかしてくれるんじゃないか?」という当クラブの信用だと思います。



3 送迎のサポートで取り組みの効果を実感

送迎サポートを行うことで、地域移行により最寄りの学校以外での活動の際の移動問題が解消できたことは非常に大きいと思っています。令和6(2024)年度は試験的に無償で運行していますが、活動を継続するためには財源が必要となります。そのため、今後は、受益者負担と町の委託費、寄付等で賄っていくことをめざします。利用者の中学生からは「学校から活動場所までバスが出るからスポーツを続けることができてうれしい」という声もあります。移動は、北海道特有問題ですべてのニーズを満たすのは難しいものの、今後もさまざまな工夫で課題を解決していきたいと考えています。



送迎サポートで移動問題を解消

4

「夢が実現できる場所を創造する」 地域で必要とされる存在をめざして

私たちは生涯スポーツとマルチスポーツを推奨し、世代を超えたスポーツ・芸術文化活動を推進していきます。「する」人だけでなく「みる」や「ささえる」人も増やすことで、小さい町でも活動を継続できます。パブリックビューイングの開催や町内で行われるクラブ活動の情報発信をすることで、「みる」文化を醸成できると考えています。このようにスポーツや芸術文化活動をさまざまな視点で捉えて限られたリソースの中で活動を発展させていくことが重要です。



「パリオリンピックパブリック ビューイング」ではスポーツを 「みる」文化を醸成

人口減少や少子高齢化により既存の仕組みではうまくいかないことが、地域の課題として現れてきます。部活動の地域移行もそのうちの一つです。これらの課題はいずれやってきます。課題が問題になってから取り組むのではなく、今できることから始めれば少し変わった未来を迎えることができると信じています。

私たちは、「夢が実現できる場を創造する」というミッションを掲げています。そのためにはいかなることにも主体的に誠意をもって取り組むことが重要だと感じています。これからも地域で必要とされ、ちょっぴり自慢できるクラブづくりに取り組んでいきます。



クラブプロフィール

設立年月日 平成31年1月15日(令和元年5月28日法人登記)

北海道勇払郡安平町早来栄町133番地70 所在地

運営 会員数:334名(令和6年8月現在)、予算規模:約27,000,000円(令和6年度)

特徴 多種目の活動展開

乗馬やアイスホッケーなど地域特性を生かした活動

マルチスポーツの推進 スポーツ少年団との連携

行政との連携 地域との連携 企業との連携

連絡先 〒059-1505住所:北海道勇払郡安平町早来栄町133番地70

> TEL:080 4294 3634 FAX:なし HP: https://ab-sports-club.studio.site/ E-mail: info-abira@ab-sports-club.com